# 1.　評価結果概要表

評価確定日　　平成19年7月30日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 2274200308 |
| 法人名 | 加藤建設株式会社　介護事業部 |
| 事業所名 | グループホーム　ジョイクラブ |
| 所在地<br>（電話番号） | 静岡市清水区梅ヶ谷　58<br>電話　054－348－2990 |

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | セリオコーポレーション有限会社 |
| 所在地 | 静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号 |
| 訪問調査日 | 平成19年6月13日 |

## 【情報提供票より】（　19年　05月　28日事業所記入）

（1）組織概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成　15　年　10　月　15　日 | | |
| ユニット数 | 1　ユニット | 利用定員数計 | 9　人 |
| 職員数 | 13　人 | 常勤　5　人，非常勤　8　人，常勤換算　5．2　人 | |

（2）建物概要

| | | |
|---|---|---|
| 建物形態 | 単独 | 改築 |
| 建物構造 | 鉄骨　造り | |
| | 2　階建ての　1　階　部分 | |

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 60,000　円 | | その他の経費（月額） | 26,000　円 |
| 敷　金 | 有　（　180，000　円） | | | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有／無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200　円 | 昼食 | 500　円 |
| | 夕食 | 500　円 | おやつ | 0　円 |
| | または1日当たり　1，200　円 | | | |

（4）利用者の概要（19年　05月　28日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | 7　名 | 男性 | 1　名 | 女性 | 6　名 |
| 要介護1 | 0　名 | 要介護2 | 1　名 | | |
| 要介護3 | 2　名 | 要介護4 | 2　名 | | |
| 要介護5 | 1　名 | 要支援2 | 1　名 | | |
| 年齢　平均 | 88.9　歳 | 最低 | 83　歳 | 最高 | 94　歳 |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 中川内科小児科医院　・　クリタ歯科医院 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体の建設会社の元本社を改築し、デイサービスを併設したグループホームである。敷地や建物は広々としており、スロープ・段差解消・和室・ウッドデッキ等改装され、高齢者の身体機能に相応しい共用空間である。居室も和・洋を準備し,馴染みの家具等を配置し,寛げる居住空間が築かれており、家庭的な環境で利用者を支援している。併設されたデイサービスの行事への参加や筋トレマシンの活用等、多機能性も生かされている。運営推進会議も2回開催され、地域密着型の役割を果たしつつあるが、地域活動への実参加や市町村との連携強化を図ることにより、更なる発展が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

**重点項目①**

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の要改善項目については、殆どが改善されていた。しかし、地域密着型の趣旨に基づく市町村・地域との連携については、これからの課題として残っている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価については、全ての職員で検討して作成された。外部評価についても、その結果を全ての職員で検討し、改善に結びつける姿勢が窺えた。

**重点項目②**

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、市・包括・区長・民生委員・利用者・家族等・職員の参加を得て2月と4月に行われ、1回目は会議の趣旨・現状報告・運営方針説明・質疑応答の中からサービス向上に結びつける努力をしている。2回目は駐車場を使い、利用者・家族等・職員・地区委員との交流を兼ねたバーベキュー大会が行われた。

**重点項目③**

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

ホームや公的苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しており、契約時・介護計画作成時・定期報告時・家族訪問時に意見を聞き、ホーム運営に反映している。 毎月の「ジョイクラブだより」や利用状況報告書の発行は、家族の不安解消に役立ち、また楽しみにされ、喜ばれている。

**重点項目④**

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

グループホームは益々地域密着型を求められている。現在は行事・催しに参加したり、ジョイ祭りを開催し地元の方々を招いて交流に努めているが、自治会・老人会等への実活動には参加していない。できる限り積極的に自治会・老人会等への活動の参加が期待される。

# 2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| １．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 現施設長が就任時、理念として「いつもとおんなじ暮らし、こまらない暮らし」を掲げ、ホーム内にも掲示している。地域でその人らしく暮らしていくために、利用者個々の馴染みの人・物・場所を共有化する努力をしている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホームの理念・方針について、毎月のスタッフ会議・毎日の報告の折に話題にし、周知徹底を図っている。 | | |
| ２．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 行事・催しへは参加したり、ジョイ祭りを開催し地元の方々を招いて交流に努めているが、自治会・老人会等への活動には参加していない。 | ○ | グループホームが益々地域密着型を求められている現在、できる限り積極的に自治会・老人会等への活動の参加を検討されたい。 |
| ３．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価については、全ての職員で検討して作成し、外部評価についても、その結果を全ての職員で検討し、改善に結びつける姿勢が窺えた。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2月と4月に行われ、現状報告・運営方針説明・質疑応答の中からサービス向上に結びつける努力をしている。会場も会議室だけでなく駐車場を使い、利用者とのバーベキュー交流会も兼ねて行われた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議以外は、行われていない。 | ○ | 絶えず新しい情報を入手し、地域密着型に相応しい機能を果たすためにも、更に市町村との連携強化の機会を模索願いたい。 |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月「ジョイクラブだより」を発行し、入居者の暮らしぶり・新規入居者や職員を紹介している。また、月次に利用状況報告書を作成し、金銭・薬の状況等の報告は、家族からも楽しみにされ、喜ばれている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書にホームや公的苦情受付窓口を明示している。今のところ苦情の受付はないが、契約時・介護計画作成時・定期報告時・家族訪問時に意見を聞き、ホーム運営に反映している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 採用時の面接は必ず2名以上で行い、勤務の継続性を評価している。また、定着を図るために業務内容・理念・方針等を教育し、異動による利用者へのダメージを与えないよう配慮している。 | | |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に対する理解はあるが、職員のレベルに応じた年間研修計画は作成されていない。 | ○ | 研修案内ごとに参加を検討するよりも、正規・パートを問わず、レベルに応じた年間研修計画を検討されたい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業他社との自主的な交流は行われていない。 | ○ | 同業他社とのネットワークを作り、勉強会・相互訪問等を通じ、サービスの質向上に向けた取り組みの検討をお願いしたい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 納得してサービスを受けられるために、見学時の交流・デイサービスの活用等を図っている。また、気楽にショートステイができる体制作りを検討している。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居時のアセスメントシートや日常の対話の中から、利用者一人ひとりの特性を把握し、その人なりの役割を持たせ、相互に尊重しながら喜怒哀楽を共にするよう努力している。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族等から利用者の生活歴、趣味嗜好などをバックグラウンドアセスメントシートに記入してもらっている。また利用者の生活状況をよく観察すると共に利用者との会話の中から現有能力を把握し、個別に対応している。 | | |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 家族等とのオフィシャルな会議形式の話合いは実施していないが、機会ある毎にケアの在り方について話し合っている。また会議で職員の意見や家族等から聴取した意見・提案を検討して介護計画に反映している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的（3ヶ月毎）に見直しをしている。また毎月の会議で変更の要否を検討している。 | | 会議等で検討した結果、変更する必要のなかった場合の「変更不要」の記録をし、検討した証としたい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 併設のディサービスの行事をよく活用している。ディサービスには筋トレマシンなどが設置されていて、有効利用している。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 従来からの主治医の継続を尊重している。事情の許されない場合には本人・家族等の了解の上、施設と提携している医療機関で受診している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療連携加算体制を敷いており、マニュアルがあり、いつでも対応できる体制にある。 | | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| １．その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| （1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人別にファイルし、家族等にのみが閲覧できるようになっている。また恥辱的になりがちな事項については内々的にサポートしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の希望を把握し、その実現にサイドから支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日一緒に買物に出かけて、利用者の希望をベースに献立を決めている。現有能力に応じて調理・片付けなどへの参加ができている。希望に基づく月１回の外食も楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴時間、湯温、一番湯等利用者の希望を聴いて原則毎日入浴させている。特にトラブルは起きていない。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 家族等から利用者の生活歴、過去の趣味・特技などを収集し、利用者に役割を勧め、精神の活性化を図っている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 肉体的には比較的元気な利用者が多いこともあり、買物、散歩、ドライブ等毎日の日課になっている。月に一回は外食に出かけている。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室の鍵は利用者の自由で、外からは施錠してない。玄関も夜間以外施錠せず、拘束状態はない。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年１回定期的に防災避難訓練をしているが、独自の訓練で地域との合同訓練はない。 | ○ | 災害時、特に夜間の場合、一人の夜勤職員で利用者全員の避難誘導は困難であり、地区の自主防災訓練にも積極的に参加し、災害発生時の応援体制を確立したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個人別に食事量、水分の摂取量を管理しているが、カロリー計算や栄養バランスはチェックされていない。 | ○ | 管理栄養士がいないため、業者からの配達による夕食を除きカロリー計算ができていない。年何回かはカロリー計算や栄養バランスのチェックを行い、職員の料理傾向の把握に努められたい。 |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| （1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間も充分な面積を有し、木目調の温かみのある内装になっている。利用者も落着いた生活をしていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 洋間と和室があり、利用者の希望に応じている。使い慣れた家具等が持ち込まれていた。 | | |